優秀賞 CLA 2004

殿ヶ谷戸庭園
緑の保全回復調査

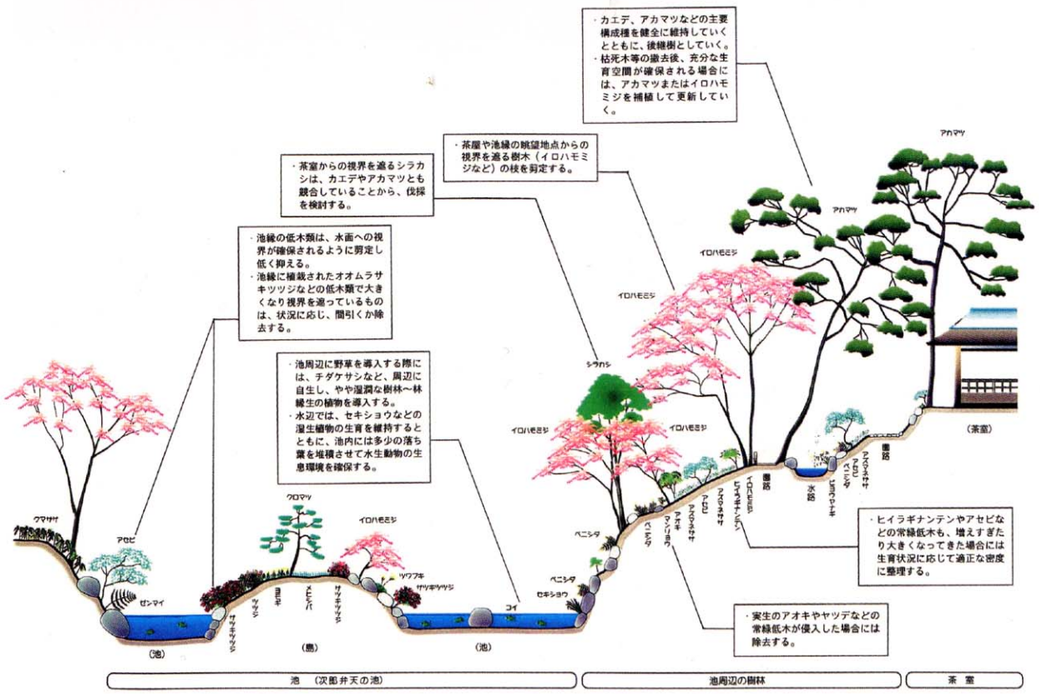
株式会社愛植物設計事務所　福留晴子・趙　賢一・高橋耕一・大塚生美・山本紀久

東京都名勝に指定される都立殿ヶ谷戸庭園は,「国分寺崖線の南縁にあって，典型的な段丘崖を含んだ地形を巧みに生かして作庭された変化に富んだ廻遊式林泉庭園（名勝指定理由）」である。しかし，廻遊式庭園としての整備から約70年，都立庭園として正式開園後20年以上が経過し，庭園内の景観や周辺環境も変化していた。そこで，本庭園の特徴的な緑環境の保全・回復の提案を目的として，本調査を実施した。

調査の結果，本庭園では，武蔵野らしい植生（シラカシ林，コナラ林，低茎草地等）や湧水などの自然資源と，うっそうとした崖下の樹林と明るくすっきりとした崖上の芝庭がコントラストを成す廻遊式庭園としての景観の双方とも，継続的な管理により，維持されていることがわかった。しかし，一部の場所で，樹木の生長などによる庭園景観の損失，自生する野草が見どころとして活用されていない等の課題があった。それらをふまえ，緑の保全・回復目標の設定，および植生・植栽の管理・改修に関わる提案を行った。

おもな調査項目

- 植物相調査（環境区分別に実施）
- 微地形区分図・植生図・アカマツ分布図（活力度調査を含む）・野草分布図等の作成
- 動物調査（鳥類，トンボ・チョウ類，魚介類ほか）
- 周辺の土地利用の変化，地形・地質・水環境についての資料調査
- 名勝指定理由等についての資料調査
- 作庭直後の管理状況についてのヒアリング
- 廻遊式庭園としての景観調査（現地調査）
- 作庭当時および都立庭園としての開園時の景観写真等の収集


・カエデ、アカマツなどの主要構成種を健全に維持していくとともに、後継樹としていく。
・枯死木等の撤去後、充分な生育空間が確保される場合には、アカマツまたはイロハモミジを補植して更新していく。
・茶屋からの視界を遮るシラカシは、カエデやアカマツとも競合していることから、伐採を検討する。
・茶屋や池縁の眺望地点からの視界を遮る樹木（イロハモミジなど）の枝を剪定する。
・池縁の低木類は、水面への視界が確保されるように剪定し低く抑える。
・池縁に植栽されたオオムラサキツツジなどの低木類で大きくなり視界を遮っているものは、状況に応じ、間引くか除去する。
・池周辺に野草を導入する際には、チダケサシなど、周辺に自生し、やや湿潤な樹林～林縁生の植物を導入する。
・水辺では、セキショウなどの湿生植物の生育を維持するとともに、池内には多少の落ち葉を堆積させて水生動物の生息環境を確保する。
・ヒイラギナンテンやアセビなどの常緑低木も、増えすぎたり大きくなってきた場合には生育状況に応じて適正な密度に整理する。
・実生のアオキやヤツデなどの常緑低木が侵入した場合には除去する。
アカマツ
イロハモミジ
シラカシ
クロマツ
クマザサ
アセビ
ゼンマイ
ツワブキ
ヤツデ
ヤブコウジ
ヤブミョウガ
ヤブヘビイチゴ
ヤブラン
ヤブソテツ
ヤブツバキ